

授業は教師のいのちです。授業は子どもたちのいのちです。授業はそんな大事な時間です！

自宅授業も国語の授業も、太鼓の練習も、何もかもが子どもたちの将来の血となり肉となるのです！

■■■自宅授業で、楽しく勉強、体育もしました！■■■



1月23日(月)は、大規模なデモが計画されているということで、教員宅で「自宅授業」を実施しました。各部屋に分かれての6時間の授業、庭での体育、敷地内でのアビラ登山に向けてのマラソン、リビングでの昼食…と、すべて学校と同じことを同じように実施しました。楽しく有意義な1日になりました。



■■■今年度最後の授業研究会実施■■■

1月25日(水)に第4回授業研究会を小学部4年国語で実施しました。全教員で分かる授業創造のため、知恵寄せ合った1年でした。

カラカス日本人学校をもっともっと知り、もっともっと好きになるために…(その148)

カラカス日本人学校はみんなの大切な、大切な宝物です！ NO. 43

2月18日(土)の日本文化週間で、カラカス太鼓を演奏します。子どもたちは、火曜日と木曜日の朝に熱の入った練習をしています。さて、今回からはこの「カラカス太鼓」創設の頃の話連載します。カラカス太鼓は今から21年前の創立20周年記念行事の中で誕生しました。当時の先生方の努力の結晶と言っても過言ではありません。その中心となられた方が、西岡裕知先生(平成6年度派遣教員)でした。この度、以前紹介した宮永久美子先生の絆つながりで、西岡先生に当時のことを思い出して、レポートを書いていただきました。その貴重なレポートをこの欄に連載します。■カラカス太鼓創設のころのこと■ 1. 自己紹介 はじめに、私が太鼓に関わったいきさつをお伝えします。20周年記念として、記念行事を行うことと、記念誌を発行することが決まりました。それぞれの部会は、記念行事は私が、記念誌は宮永久美子先生が長として進めていくことになりました。記念行事として、のちにカラカス太鼓を実施することに決まったので「記念行事・太鼓部会」として進めることになりました。宮永先生は「記念誌部会長」ですが、実際の指導では専門が音楽ということで、大いにお力を借りました。太鼓部会長として進めましたが、私は音楽の専門ではありませんし、本格的に和太鼓を学んだこともありません。しかし趣味で音楽を楽しんでおり、当時はリコーダーアンサンブルをしたり、ケーナを吹いたりしていました。余談ですが、ケーナは今でも続けていてグループでフォルクローレの演奏を楽しんでいます。カラカス日本人学校に赴任する前の小学校では、地域の伝承太鼓が教育活動に組み入れられており、全校児童(小規模校です)で太鼓や笛を演奏していました。音楽が趣味だったためか、その担当となり、太鼓の指導にあたっていました。その経験が役に立ちました。

2. 資料1(この資料は次回に掲載します) 20周年記念行事のときの配布物に載せた資料がありました。カラカス太鼓創設のいきさつを簡潔にまとめたものです。人数は「5*名」となっています。たぶん当日まで児童生徒の転出入の可能性があり、この原稿を書いた時点では決定できなかったのだと思います。きっと印刷直前に数を記入したのでしょう(笑)。後述しますが、カラカス太鼓を作ろうと決めたときの人数は70名ほどだったので、1年半の間に10名以上減少したことになります。ホームページを拝見しました。少ない人数にはなりましたが、子どもたちと先生方が一緒になって演奏している写真を見て、当時を懐かしく思い出しました。また当時にはなかった曲も加わっており、発展的に受け継がれ40周年に至るまで演奏し続けられていることを本當にうれしく思います。太鼓の曲は、楽譜に起こしました。20周年以降も毎年引き継がれることを期待して、校長室の引き出しに100冊ほど残してきました。あの楽譜も引き継がれているのでしょうか。(引き継がれていますよ) その巻頭に、太鼓の創設や曲が生まれた経緯、そして曲の解説を書いておきました。上記の内容を具体的に書いたもので、お読みくださればある程度のはわかると思います。あれから20年以上もたっているのに、楽譜がすべて使われてしまっていないかもしれません。(大丈夫ですよ) (写真:当時の先生方) つづく

